



愛研技術通信

残暑お見舞い申し上げます

いつも格別のお引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

今後とも、倍旧のご愛顧を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます

この夏は、梅雨明け以来太平洋高気圧の勢力が強く、ふたを開けてみれば猛暑となっています。一方でいくつもの台風が日本に近づき、湿気による蒸し暑さや所によっては大雨をもたらしています。

今後も東海地方は、8月の1か月予報、8-10月の3か月予報ともに、気温が平年より高いと予測されています。しばらくは高温注意の日々が続くと見込まれます。

皆様には、くれぐれも御自愛ください。

代表取締役社長 鎌田 務
社員一同

掲 示 板

法令・告示・通知・最新記事・その他

○ 土壤汚染対策法施行規則の一部を改正する省令等の公布について

平成26年8月4日 環境省報道発表資料 抜粋

「土壤汚染対策法施行規則の一部を改正する省令」が平成26年8月1日付け公布され、同日から施行されることになりましたので、お知らせいたします。

今回の省令改正は、1,1-ジクロロエチレンについて、土壤汚染対策法に基づく土壤溶出量及び地下水基準を0.02mg/Lから0.1mg/Lに、第二溶出量基準を0.2mg/Lから1mg/Lに改正するものです。

1. 改正の経緯

平成25年10月7日、環境大臣から中央環境審議会（以下、「中環審」という。）会長に対し、「土壤の汚染に係る環境基準及び土壤汚染対策法に基づく特定有害物質の見直し等について」（1,1-ジクロロエチレン等の6物質が対象）諮問がなされました。平成26年3月20日に1,1-ジクロロエチレンの土壤環境

基準を0.02mg/Lから0.1mg/Lに見直す告示改正がなされ、土壤汚染対策法に基づく特定有害物質の見直しその他法の運用に関し必要な事項については、平成26年3月28日の中環審土壤農薬部会土壤制度専門委員会、更に同年7月3日の土壤農薬部会において審議が行われ、平成26年7月28日付けで中環審会長から環境大臣へ第1次答申がなされました。

これを受け、1,1-ジクロロエチレンについて、土壤汚染対策法に基づく土壤溶出量基準及び地下水基準を0.02mg/Lから0.1mg/Lに、第二溶出量基準を0.2mg/Lから1mg/Lに改正するものです。

2. 改正の内容

土壤汚染対策法施行規則

・別表第1（地下水基準）

1,1-ジクロロエチレンの項中、1リットルにつき「0.02mg以下であること」を「0.1mg以下であること」に改める。

・別表第2（第二溶出量基準）

1,1-ジクロロエチレンの項中、検液1リットルにつき「0.2mg以下であること」を「1mg以下であること」に改める。

・別表第3（土壤溶出量基準）

1,1-ジクロロエチレンの項中、検液1リットルにつき「0.02mg以下であること」を「0.1mg以下であること」に改める。

・第64条第1項第12号

「所有者」を「使用者」に改める。

・様式第16（法第16条第1項及び規則第61条1項に基づく様式）

「運搬の用に供する自動車等の所有者の氏名又は名称及び連絡先」を「運搬の用に供する自動車等の使用者の氏名又は名称及び連絡先」に改める。

・様式第18（法第16条第3項及び規則第64条1項に基づく様式）

「運搬の用に供する自動車等の所有者の氏名又は名称及び連絡先」を「運搬の用に供する自動車等の使用者の氏名又は名称及び連絡先」に改める。

3. 施行期日

公布の日



寄稿

入社一年を振り返って

測定分析部 末松千賀子

愛研に入社してから、約一年が経ちました。この一年間を振り返り、私が感じたことや携わった仕事について紹介したいと思います。

今思えば、社会人一年目はあっという間に過ぎていきました。日々の仕事を覚えることで精一杯になってしまい、周りを見る余裕もありませんでした。1ヵ月の研修で会社の雰囲気慣れた後、

測定分析部・大気グループに配属されました。担当分析業務は、作業環境測定、シックハウス測定、水質分析（陰イオン、シアン、臭素酸、陰イオン界面活性剤、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸）などです。入社一年目の仕事を振り返ってみると、とても密度の濃い時間を過ごすことができたという思いです。特に、高速液体クロマトグラフ質量分析計(LC/MS/MS)の立ち上げに携わったことは、色々な意味で勉強になりました。もちろん、何もわからない新人なので上司の補佐としてですが、LC/MS/MS法による直鎖アルキルベンゼンスルホン酸(LAS)の分析の立ち上げに携わることができました。

ということで、LC/MS/MS法によるLASの分析に

ついでにご紹介します。平成25年3月27日、環境基本法に基づく水質汚濁に係る生活環境の保全に関する環境基準のうち、水生生物の保全に係る環境基準の項目に、LASを追加する告示が施行されました。LASとは、界面活性剤の一種で、家庭用洗剤等に使われる合成洗剤です。分析方法としては、水質試料に対して固相カートリッジで固相抽出を行い、メタノールで溶出させ、蒸発乾固させてからアセトニトリル・水混液で定容したものをLC/MS/MS-SIM 負イオンモードで定量します。この

分析は、適切に器具洗浄や作業工程等を行わないと、ブランクにおいてもLASが検出される極微量分析です。今回、この分析の立ち上げの経験を通じて、今後の仕事への取り組み方や意識を改めて考えられるようになったことも大きな収穫でした。

二年目を迎え、この一年間で反省すべき点は反省し、これからも多くの経験を積んで今後もさらに成長していけるように一層努力してまいります。

つれづれ水紀行

第13回 達目洞（岐阜県岐阜市）

平成の名水百選に選定された「だちぼくぼら」と読むこの聞き慣れない地名は、金華山を挟んで岐阜市街の裏側に当たる名古屋から以外に近い場所である。「ヒメコウホネ」の花期を狙って7月中旬に訪れた。

車で国道156号岐阜東バイパスを関市方面に向かいトンネルを出て岐阜環状線の分岐を過ぎてすぐ、うっかりすると通り過ぎるような思いがけない所を左に入り岐阜環状線の高架をくぐると、金華山から連なる高さ二百メートル前後の緑の山々に囲まれた達目洞という沢に草地や水田がひっそりと広がっている。この沢の排水のために江戸時代に開削された逆川（さかしまがわ）は確かに長良川とは逆の南東向きに流れている。幅2mほどの小さな直線状の水路だが梅雨末期でもあり豊かな水量を保っていた。岐阜環状線が長いスパンで跨いでおり、意外にもその高架下にヒメコウホネが咲いている。



達目洞全景



岐阜環状線高架と逆川

ヒメコウホネはスイレン科の多年草で、環境省レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類、岐阜県レッドデータブックの絶滅危惧Ⅰ類に指定されており、この達目洞のシンボリックな花にもなっている。花期は5月から10月と長く、春の花が咲き終わり花の少ないこの時期、梅雨の合間の強い日差しの下で、ヒメコウホネだけが水面に楚々とした黄色の花をつけていた。地元の人によると、ヒメコウホネは放置しておく他の植物に押されて生育できなくなるそうで、ある程度の保護活動が欠かせないとのこと。

達目洞では岐阜環状線の建設計画をきっかけに平成4年にヒメコウホネの生育が確認され、その保全に向けて県と市、市民団体との協議がされた結果、影響軽減のため道路の設計変更が行われた。また、岐阜市は「自然環境の保全に関する条例」を施行、ヒメコウホネを貴重野生動植物種に指定し「達目洞ヒメコウホネ特別保全地区」の指定を行った。

地元では、達目洞のヒメコウホネの観察会や保全活動を行ってきた市民団体を中心に「達目洞自然の会」が平成14年5月に結成され、ヒメコウホネの保全をはじめ、里山環境の保全・再生・創出活動に取り

組み、逆川の除草及び護岸整備、周辺の水田や水路の整備、セイタカアワダチソウなど外来植物の除去等、洞全体にわたる保全活動を行っているとのことである。平成の名水百選に選ばれたことは、こういった活動が認められたとあってよいだろう。

金華山の東からの登山ルートの入り口ともなっているので、金華山のハイクを兼ねて訪れるのもよいと思う。(A.F.)



ヒメコウホネ

アクセス：岐阜バス「日野鈴虫」又は「日野本郷」バス停下車、徒歩 15 分。車では国道 156 号岐阜東バイパス岩戸トンネルを出て岐阜環状線の分岐からすぐ。

編集後記

環境に関する最近の話題から。

東京電力福島第一原発事故で発生した放射性的「指定廃棄物」の最終処分場、栃木県内の候補地が塩谷町に伝えられましたが、地元は反発（7月30日）。これまでに選定のやり直しがあった経緯や、他の都県では場所選定の手順すら決まっていないところもあるなど、大きな「負の遺産」の解消について前途の多難さを伺わせました。

一方、「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機とした環境配慮の推進」について、とりまとめ公表がされました（8月5日）。

東京大会は、今後多くの国が直面する人口減少・高齢化が本格的に進展する社会の中で開催され、また、2020年は温室効果ガスの削減目標年と生物多様性に係る愛知目標の目標年になっています。

これはそのなかで、社会の仕組みや価値観の変化を含めた「循環共生型社会」の実現に向けて、大会そのものだけでなく開催地全体において環境配慮の取組を盛り込むことを契機として、環境配慮を内外に波及させていくことを狙うものです。

オリンピックでの環境問題といえば、北京大会での大気汚染が世界中に注目され、PM2.5が流行語にもなったことは記憶に新しいところです。東京大会では、東日本大震災からの本当の復興を示すことをも含めて、環境面でも世界から好感を持たれるように期待したいところです。(A.F.)



株式会社 愛研

(<http://www.ai-ken.co.jp>)

本社 〒463-0037 名古屋市守山区天子田 2-710

電話(052)771-2717 FAX(052)771-2641

半田営業所 〒475-0088 半田市花田町 2-65

電話(0569)28-4738 FAX(0569)28-4749